

社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第55号



〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-2 3-2 7 2 0
Fax: 0853-2 3-2 7 2 1
E-mail shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

障がい福祉サービスについての流れ ～安心した生活を送れるように～

相談支援事業所ハートピア出雲です。
明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

下記の表は利用者の皆さんが満足いく安心安全なサービス提供が得られるよう相談支援事業所とサービス提供事業所との動きを一般化した図式です。

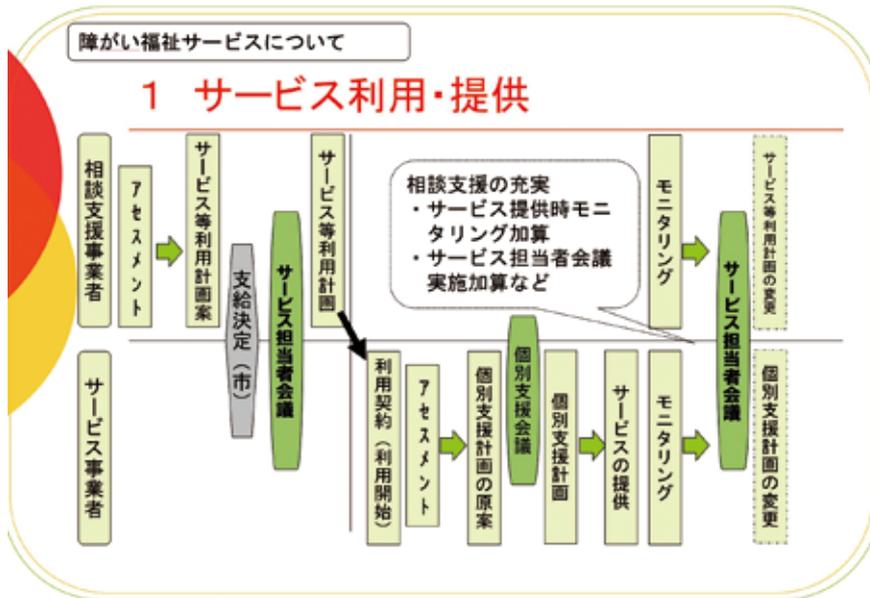
出雲市から支給決定を受け、以降はサービスを利用開始してから誕生日月更新までの動き示しています。その間に利用者宅へ訪問してモニタリング（評価）を行ったり、サービス提供事業所のサービス管理責任者を交えてサービス担当者会議を行ない、日頃利用しているサービス内容について話し合いを行ないます。話し合いでは

今後の利用目標やサービス提供内容の変更などを協議し、サービス等利用計画書、個別支援計画書の変更、更新を行う流れとなっています。

また昨今は災害に備え、高齢者や障がい者の避難方法などを事前に決めておく「災害時個別支援計画書」を義務化（災害対策基本法）とする流れとなっています。

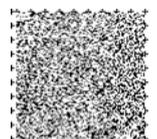
日頃のサービス提供だけでなく、将来を見据え、安心した生活を送れるよう寄り添う事が出来ればと考えております。

（文：相談支援専門員 萬代 祐二）



まぐじ

- 障がい福祉サービスについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 p
- 障がい者アート展に作品展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 p
- コロナ禍での心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 p
- お祝いアレコレ＆苦情の解決対応・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 p



障がい者アート作品展に ハートピア出雲ステップの子どもたち制作の作品が展示



作品名：「にじいろのさかなとステップの仲間たち」



障がい者アート作品展が、昨年12月4日から6日まで島根県立美術館ギャラリーで行われました。

この作品を作り始めたのは春の終わりごろでした。今年はコロナ禍の中での制作となり、子ども達も複雑な思いで日々過ごしていました。夏休みも夏休みらしいことを思いっきりできず、できることを楽しみました。そんな毎日の中で「にじいろのさかな」を題材に皆で作品を制作しました。キラキラ光る魚のウロコは、子ども達と子ども達の未来そのものです。いくつもの工程をふんで、原画の絵の形にできあがっていく様子は、紙の絵に息吹を吹き込むかのようなようでした。

細かい作業の連続でしたが、子ども達は色選びや形の変化を楽しみながら作り上げていきました。慣れてくると自分たちだけで作業する子もいました。作品制作を通じて、子ども達はまた一つ成長しています。額も子どもたちが作っています。43名の成長の瞬間(とき)が詰まった作品です。

(文：放課後等デイサービスステップ保育士 川上 妙子)

今回この作品のモチーフにさせていただいたのは「にじいろのさかな」の絵本5冊です。保護者さんに持ってきていただいた卵パックを素材に使い、子どもたちが毎日少しずつ塗ったり切ったり焼いたりし、そのパーツをいかして絵につけていきました。約40名の子どもたちの合作です。

毎年開催されている出雲市福祉芸術文化祭に作品を展示させていただいているのですが、今年はコロナ禍で中止となり、この作品を少しずつ作り、仕上げていた子どもたちの活躍の場になることを願いアート作品展に応募しました。

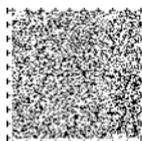
アート作品展に応募・展示させていただくにあたり、絵本を出版している講談社に著作権利用についてお願いをしたところ、作者のマークス・フィスターさんから了承をいただけた時は、私たち職員もとても嬉しく温かい気持ちになりました。

アート作品展に展示させていただき、コツコツ作り続けた子どもたちの活躍の場になったこと、心より感謝申し上げます。

(文：放課後等デイサービスステップ児童発達支援管理責任者 佐々木 圭子)



●作品づくりに励むステップの子どもたち



～コロナ禍での心構え～ 島根県広報からのお知らせです。

県民の皆さまへのお願い ご協力をお願いします

●基本的な感染症対策を徹底しましょう

- ・手洗いなどの手指衛生
- ・マスク着用などの咳エチケット



●新型コロナウイルスの 感染リスクを減らしましょう

- ・「5つの場面」に注意
 - ①飲酒を伴う懇親会等
 - ②大人数や長時間におよぶ飲食
 - ③マスクなしでの会話
 - ④狭い空間での共同生活
 - ⑤居場所の切り替わり
- ・「3つの密」の回避
- ・人と人との距離の確保
- ・加湿や十分な換気



など

●厚生労働省の接触確認アプリ (COCOA)を積極的に活用し ましょう

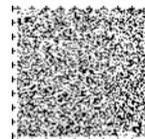


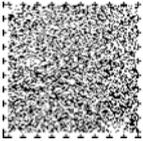
※令和2年12月19日付け山陰中央新報の島根県広報から抜粋しました。

◆新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA について利用者向けQ & Aから紹介します◆

1. このスマートフォンアプリは、利用者本人の同意を前提に、お互いにわからないようプライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができます。
2. 新型コロナウイルス感染症の陽性者が、本人の同意のもと、陽性者であることをアプリに登録した場合に、その陽性者と過去14日間に、概ね1メートル以内で15分以上、利用中のスマートフォン同士が近接した状態の可能性があった場合に通知されます。
3. どこで、いつ、誰と接触したのかは、互いにわかりません。
4. 接触に関する記録は、暗号化のうえ、本人のスマートフォンの中のみ記録され、外には出ません。記録は14日経過後に無効となります。
5. 連絡先、位置情報など個人が特定される情報は記録されません。
6. 通知を受けた後は、利用者自身の症状などを選択すると、帰国者・接触者外来等の連絡先が表示され、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。
7. 利用者が増えることで、感染防止につながることを期待されます。(施設長 山本 順久)

※このQ & Aは内閣官房「新型コロナウイルス感染症対策推進室 情報通信技術(IT)総合戦略室」によるチラシから抜粋しました。





第53回 島根県総合美術展にて ワークセンターフロンティア職員大田敦美さんが『知事賞』受賞！

第53回島根県総合美術展デザイン部門にグラフィックデザイン作品を出品しました。作品名は「時間^{とき}は成長なり」です。今回が2度目の出品で、前回は出雲高等技術校（現、東部高等技術校）在籍中でした。

前回出品から10年以上の月日が経ち、結婚し、子どもができたことで生活がガラリと変わり、また子どもの将来を考えるようにもなりました。親として、やはり苦難がありながらも明るく元気に成長してほしいという思いを作品に込め、下から上への数字を時間と年齢にみたと、卓上の果物やパンのカラーの部分を生人の分岐点に見立てました。

今回知事賞を受賞できたのも息子の存在は大きく、そしてワークセンターフロンティアの設備を活用させていただいたことにも感謝です。（文：ワークセンターフロンティア職員 大田 敦美）



●大田敦美さん受賞作品の前で（島根県立美術館）

◆創文会職員3名が今年度の出雲市社会福祉協議会会長表彰を受賞◆

社会福祉施設、社会福祉協議会及び福祉団体等役職員功労者
職員で20年以上勤務し、特に功績顕著な方

- 佐藤 智子・・・・・・・・社会福祉法人創文会職員
- 園山 美恵・・・・・・・・社会福祉法人創文会職員
- 高橋 悦子・・・・・・・・社会福祉法人創文会職員

この度、20年勤続表彰を受けられた3名は、社会福祉法人創文会ハートピア出雲の立ち上げ当初から勤続している職員の皆さんです。長い間ハートピア出雲の事業に従事し、多くの利用者、利用児さんと関わりご尽力されました。この表彰が、過去を振り返り、これからどうしていきたいかお互いに考えるきっかけになるとよいと思います。（文：施設長 山本 順久）

苦情の解決対応について

令和2年の間に苦情件数は0件でした。

今後も引き続き、意見箱の設置や利用者会議の開催、保護者アンケートの実施等を通じて、寄せられたご意見ご要望を大切にしてサービス向上に努めてまいります。

編集 後記

◆筋ジストロフィーで車いす生活をおくる男性を描いた実話をもとにした映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」を先日観ました。ワガママ気ままでおしゃべり大好きな主人公と彼をサポートするボランティアなどの介助者たちとの人間模様がとても嫌味なく描かれた作品でした。作品の舞台が90年代半ばで、障がい者の福祉制度が今ほど充実してないなか、筋ジストロフィーの主人公がたくましく！？介助者を電話で探すシーンを見て当時を少し思い出しました。当事者も今より熱い人が多かったかも？【編集長 米山】

